

(事務局註)前澤利春様(S50 真壁研卒)より以前訪れた旅を振り返り、旅紀行を寄稿して頂きました。

極寒の長野・岐阜の旅

大寒を過ぎ最も寒い時期に極寒の長野・岐阜の旅に出た。千葉発のバスツアーに参加した。首都高速から中央自動車道に乗り、松本 IC までほとんど渋滞はなかった。国道 158 号線で平湯温泉を経て、14 時過ぎに新穂高ロープウェイに到着する。ロープウェイ終点の西穂高口駅には 25 分程で至る。駅の屋上が展望台になっている。気温は -10°C であった。1 週間に 1 日程度しか晴れないそうだが、当日は好天に恵まれた。展望台からコバルトブルーの空を背景にした西穂高連峰を見ることができた。



西穂高連峰（西穂高口駅から望む）



高山市内陣屋

翌日は岐阜県の飛騨高山を訪ねた。ここは江戸時代元禄期以降幕府領になり代官所が置かれた。(左写真)

江戸時代以来の街並みが保存され「飛騨の小京都」と言われている。ここは豪雪地帯だが、当日雪は少なかった。



白川郷

白川郷は岐阜県庄川流域の呼称だ。1995年五箇村とともに合掌造り集落がユネスコの世界遺産に登録された。白川郷の萩原地区は今も実生活の場として使われている。訪れた当日は晴れて雪に覆われた合掌造りの家が強い日差しの中で光っていた。